

MISATO



特集

露地野菜生産の省力化の取組

ーさつまいも生分解性マルチと直播栽培たまねぎー

- 【お知らせ】
- ・令和7年度プロジェクト課題の紹介
 - ・新しく認定を受けた農業士の紹介
 - ・令和7年6月から熱中症対策が義務化されました！

令和7年度プロジェクト課題の紹介

3つのプロジェクト課題に取り組みます！

土地利用型法人の経営戦略の策定と持続的経営の展開

農事組合法人おおぬき彩土里ファームは、大崎市田尻地域で令和3年8月に設立された土地利用型法人です。設立されて間もないことから、法人運営や新規品目の栽培技術向上等についてこれまで支援してきました。

昨年度は、乾燥調製施設などの設備投資の状況や将来の雇用などの計画をもとに、専門家のアドバイスを受けながら、経営ビジョンの実現に向けた今後5年間の収支計画を作成しました。また、新規品目のさつまいもは、新たな経営部門として定着しつつあります。

今年度は、昨年度作成した収支計画の実行に向けたアクションプランを策定し、法人自らが実践できるよう支援します。また、面積を拡大するさつまいもは、適期定植や収量確保に向けた栽培管理の支援と併せて、生分解性マルチの実証ほを設け、省力化に向けた検討を行います。



経営ビジョンの検討

「北浦梨」産地の活性化に向けた、ICT活用による栽培の「見える化」



園地の気象データの計測

美里町の特産品である「北浦梨」の産地活性化のため、JA新みやぎ北浦梨部会若手生産者及び新規参入事業者を中心に、デジタル技術を活用した栽培・経営管理技術の『見える化』に取り組んでいます。

昨年度は、栽培園地内で収集した気象データと気象庁アメダスデータの比較を行い、凍霜害警戒時期の夜間の気温が園地内でやや低くなる傾向を確認し、園地ごとの測定・記録の重要性を認識するとともに、凍霜害発生リスク及び被害軽減対策に関する巡回指導時に活用しました。

今年度も各種記録の継続によりデータの活用方法を検討するとともに、情報発信ツールを用いた情報共有にも取り組みます。また、若手生産者の管理能力向上のため、経営管理計画の策定に向けた支援を行います。

堆肥の活用と施肥方法の改善による麦類の品質・収量の向上

涌谷町は県内有数の麦産地で、パン用小麦品種の「夏黄金」を中心に麦類187ha（令和7年産）を作付けしており、令和5年度から、耕畜連携及び麦作の収量・品質向上のため、町内産堆肥の効果的な施用方法の検討を行っています。

比較的農作業の少ない2～3月に生育中の小麦の上から堆肥を散布する試験では、2年連用したほ場において春以降の肥効が良くなり、無散布区に比べ約3割の収量アップとなりました。町内では徐々に早春散布ほ場が増加しています。

課題最終年度となる今年度は、連用による堆肥の効果の蓄積の調査や、出穂期以降の窒素分を多く必要とする「夏黄金」の品種特性にあった追肥法の検討などを行い、収量・品質が安定する栽培法の確立を目指します。



春先の「夏黄金」のほ場

園芸
特集

露地野菜生産の省力化の取組紹介

土地利用型の農業経営に露地野菜を導入するにあたっては、大規模な栽培面積によるスケールメリットを活かして所得を確保する必要があります。しかし、規模拡大に伴い、作業負担も増加することから作業の「省力化」は極めて重要です！そこで、今回は、当普及センター管内の省力化の取組を御紹介します。

Topics ① さつまいも栽培における「生分解性マルチ」の活用

さつまいもは、近年、需要が拡大しており、美里地域の作付面積は、令和5年で約2ha、令和7年は約6.2haに増加しています。また、JA新みやぎでは、さつまいも研究会が設立され、キュアリング施設や各種機械等の導入が進んでいます。

さつまいも栽培では、マルチが欠かせませんが、収穫後に剥ぎ取って処分する必要があるため、作付面積が増えると、作業負担が大きくなります。

そこで、普及センターでは、法人と連携して、「生分解性マルチ」を活用したさつまいも栽培の実証試験を行っています。

「生分解性マルチ」は、慣行のマルチと同様の機能を持ち、収穫後に土壌にすき込むと、微生物によって水と二酸化炭素に分解され、剥ぎ取り作業の省力化を図ることができます。

令和7年5月8日には、「生分解性マルチ」の実演会を開催し、参加者からは期待の声があがりました。今後、分解の程度や省力化の効果等を検証していき、美里地域のさつまいも栽培に適した生分解性マルチの活用方法を検討していきます。



「生分解性マルチ」実演会

Topics ② 育苗・移植を省いた「直播栽培」たまねぎの取組



苗立ちが揃った直播たまねぎ

加工業務用たまねぎの需要拡大を背景に、美里地域のたまねぎの作付面積は、令和4年産は約4haでしたが、令和7年産は約9.8haに増加しています。なかでも、たまねぎの「直播栽培」の取組が広がっています。

慣行のたまねぎ栽培では、育苗を行い、マルチを張ってから苗を定植する「移植栽培」が一般的ですが、「直播栽培」は、ほ場に直接播種するため、育苗・移植にかかる労力やコストを削減できます。

管内では、令和4年頃から「直播栽培」の取組が始まりましたが、苗立ちの安定を目指し、普及センターでは、美里地域に適した品種や播種時期を検証しました。その結果、苗立ちが安定した経営体も現れるようになり、省力化を図りながら、移植栽培と同程度の収量を得られるようになりました。

今後は、他の土地利用型品目との労働力分配のシミュレーションや、スマート農業技術の活用等、より省力的で生産性の高いたまねぎ生産を図っていきます。

NEWS

令和7年6月から熱中症対策が義務化されました！

厚生労働省において、「労働者への熱中症対策を義務付ける労働安全衛生規則（省令）」の改正が行われました。対象となる事業者には、労働者を雇用する農業者や農業法人も含まれ、熱中症対策（「早期発見のための体制整備」、「措置の実施手順の作成」、「関係者や就業者への周知」）をする必要があります。詳細は、右のQRコード（農林水産省HP）を参照いただくか、普及センターまで御相談ください。



令和7年4月1日付けで新たに認定を受けた農業士を御紹介します！

※県では、優れた農業経営を実践し、農業人材育成と地域農業振興に貢献している農業者を「農業士」として認定し、研修や交流等の活動を行っています。

指導農業士 ^{うえの} ^{けんじ} 上野 健児さん（涌谷町、野菜）

J A新みやぎ仙台小ねぎ部会（会員32名、作付面積16.2ha、販売額3.9億円）の副部会長として、パイプハウス約1haで家族経営による大規模周年生産を行い、小ねぎ栽培技術の向上と産地の発展に貢献しています。



青年農業士 ^{はやし} ^{なおき} 林 直樹さん（大崎市鹿島台、水稻）

地域農業を守るため、有限会社エイト農産の社員として土地利用型農業（水稻、小麦、野菜）63.6haの大規模経営で、2年3作のブロックローテーションやさつまいもの栽培等により、収益性の高い農業に取り組んでいます。



令和7年度美里農業改良普及センター職員・主な担当業務

所長 薄木（作物）

新

技術副参事兼総括次長 笹原（作物）

新

先進技術班

先進的農業を担う経営体への支援

- ・ 水稻や大豆、麦、園芸作物、畜産等の栽培・飼育管理技術向上支援
- ・ 農産物の流通や利活用、経営管理の発展、高度化の支援
- ・ 環境に配慮した農業技術やスマート農業等の先進的技術の普及
- ・ 農業労働改善、主要農作物の種子生産等に関する支援

伊藤

技術次長・班長
（経営・農産物利活用）

新

渋谷

技術次長（作物）

新

沼倉

技術主幹（野菜）

酒井

技術主任主査（作物）

齋藤

技師（野菜）

後藤

土壌分析補助職員

地域農業班

地域農業の重点的な課題解決の支援

- ・ 地域農業振興計画や地域営農システム構築の支援
- ・ 集落営農組織や法人化等の支援
- ・ 青年農業者や女性農業者等、多様な担い手の活躍支援
- ・ 新規就農者の経営安定化支援や就農相談

佐藤

技術次長・班長（経営・野菜）
美里町担当

佐藤

技術主査（花き）
大崎市鹿島台・松山担当

伊藤

技師（畜産）
大崎市田尻担当

新

秋月

技師（果樹）
涌谷町担当

新

※ **新** は、令和7年4月1日付けで新たに配属になった職員

発行：宮城県美里農業改良普及センター

住 所 宮城県遠田郡美里町北浦字笹館5
メー ル msnokai@pref.miyagi.lg.jp
電 話 0229-32-3115 FAX 0229-32-2225
H P <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



美里普及
センター
HP



みやぎの気候変動に適応した
農業技術情報サイト+（プラス）
HP



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

この印刷物は750部作成し1部当たりの単価は72.6円です。